

12月30日（月） 新聞掲載

（12月24日 ピザ窯を保育園へ）

12月24日に本校の機械科3年生が「みだ保育園」へ手作りのピザ窯をプレゼントしました。これは機械科の「課題研究」の授業の一環で、地域や学校等が希望したものを製作して贈っているものです。

これまでの経験から、窯自体が熱くなりすぎないように、鉄製の枠と耐火煉瓦を組み合わせで製作したものです。また、非常時の炊き出しにも使えるよう、キャスターを付け移動式にしました。

当日は、届けた後、実際にピザを焼き、ピザ生地に乗せる具材やピザが焼ける様子に興味津々の園児らと交流しました。

園長さんや子供たちに喜んでもらえて本校生も満足げでした。生徒曰く「機械科の良さを地域に伝えられた」とのことでした。

なお、この他にも、竹馬ラック、ごみステーション、踏み台、ベンチなどを女性こどもセンター、植松小、波崎西小、波崎一中等へ贈りました。



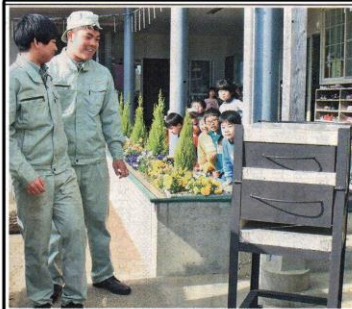
ピザ焼いて 園児と交流

神栖市土台町の県立波崎高（秋山克巳校長）機械科の生徒4人が24日、同市波崎の「みだ保育園」（川口定男園長）に手製のピザ窯を寄贈した。窯の設置とピザの試し焼きで同園を訪れた4人は、作業を見守る園児たちと交流を楽しんだ。

窯を製作、寄贈したのは、3年生の宮田裕希さん、横尾洗介さん、宮ヶ崎渉さん、安藤人さん。同高は卒業課題の一環として、地域の学校や保育園などが希望した物品を製作して贈って

手作り窯寄贈

波崎高生



⑤ピザ窯を見ようと園児も集まった。⑥ピザ作りを見に来た園児と触れ合う波崎高生。神栖市波崎

いる。鉄製の枠と耐火レンガを組み合わせたピザ窯は、高さ約110センチ、横約50センチ。車輪を付けて移動可能とし、非常時の炊き出しにも使える。

波崎高生は、組み立てた窯に火の付いた炭をくべ、ピザ作りに挑戦。ピザ生地は、具材を乗せる様子まできき込む園児たちは、興味津々で生徒を取り囲み、笑顔で交流していた。同園職員に窯の使い方も説明した。

宮田さんは自分たちの作った物が、地域の後輩たち喜んでもちえて良かった。機械科の良さも地域に伝えられたと思うと満足を話した。

川口園長は「子どもたちが育てた野菜を乗せてピザを焼きたい。卒園前にいい思い出をつくってあげられる」と喜んだ。（松浦かえで）

茨城新聞 2019年12月30日